

## ロシアは、今年中に SU-35 の対中輸出を完了する

漢和防務評論 20181210(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

平成最後の年も暮れようとしています。健康に留意して新しい年を迎えたいと思います。

中国がロシアから導入した 24 機の SU-35 はすでに 14 機は手渡され、残り 10 機は今年中に輸出完了とのことです。

中国が SU-35 を購入した真の目的は 3 つあり、第 1 はエンジン、第 2 は武器システム、第 3 は機体設計の整合技術である、と KDR は指摘しています。

ロシアの第 5 世代戦闘機 SU-57 は現在開発中ですが、第 5 世代エンジンが未完成であり、現在生産中の 15 機の SU-57 は、現行の 117S エンジンで間に合わせることになる。

現在試作機 T-50 を共同開発中のインドは、開発資金を出していますが、エンジン開発の遅れにより躊躇し始めたとのこと。

ロシア独自では開発を継続することが資金的に困難と見て、インドが手を引いたならば、中国が介入してくるのではないかと憂慮する振りをして、インドをつなぎ止めようとロシアは計略をめぐらしているはず。

### KDR モスクワ平可夫特電：

ロシア国家武器輸出入総公司 (ROSOBORONEXPORT) 総裁 A.A.MIKHEEV は、KDR に次のように述べた：S-400 地对空ミサイルの対中輸出業務は、計画通りの日程で進行中である。また彼は次のように述べた：SU-35 の対中輸出業務は、今年中に終わるであろう、と。

ロシア航空工業界のその他の消息筋は次のように述べた：SU-35 は、すでに 14 機を中国に引き渡した。残りの 10 機は現在組立中である、と。このことは最後の 10 機が今年中に中国に引き渡されることを意味する。

レーダー工業界の消息筋は次のように述べた：契約に基づいて SU-35 を中国に引き渡したのち、逐次ロシアに引き戻してソフトの改良を行い、すべての SU-35 が中国製武器を使用できるようにする、と。以前は、中国側がこれらの改良を中国で行う、と主張していた。しかしロシアに戻して改良するように最終決定された。

インドネシアもまた、SU-35 の輸入協定に署名した。また 3 番目の国家も積極的に交渉中である。

KDR は以前に、モスクワ航空工業界の一部の人が SU-57 の (対中) 輸出について憂慮している、と報道した。一旦インドが協議から離脱すると、資金問題や政治的要因で中国人が介入してくるのではないかと、と。

これに対して、ロシア聯合航空機集団総裁 YURY SLYUSAR は、2018 論壇で次のように述べた：現在インドとは、T-50 (註：SU-57 の試作機) について交

渉が進行中である。すべての交渉が終わったわけではない。彼は、ロシア空軍と契約した 15 機の SU-57 の生産に関し、具体的な内容は論壇では明らかにしなかった。ある説によると：2019 年には 2 機の SU-57 の提供が始まるという。これは部隊に配備されるタイプであるらしい。

同時にインド航空工業界の消息筋は次のように述べた：T-50 に関して、インドはすでに投資している。中国人は介入できないし、インドは許可しない、と。現在インド空軍が躊躇する理由は、新型エンジンのテストが遅々として進まないからであり、インド空軍が獲得したいのは最終的なタイプのエンジンを搭載した T-50 であるからだ。これと同時に、インドが求めているのは、最も先進的なステルス材料の生産技術の移転である。

またロシア空軍は、最終的なタイプのエンジンを搭載した T-50 を一定数購入を希望している。

KDR の分析では、T-50 の生産機数が少ない理由は、ここにある可能性がある。航空工業界の一部の高官消息筋は、同時に次のように述べた：現段階では、T-50 のいかなる技術も中国に売ることはできない。状況は、SU-35 とは異なる。後者は、最初から輸出を準備していた。KDR はすでに何度も説明している：中国が SU-35 を購入した真の目的は 3 つある。第 1 はエンジンである。第 2 は武器システムである。第 3 は機体設計の整合技術である、と。

表面上、中国は各種型式の空対空、空対地ミサイルの生産を開始したように見えるが、外形は欧米の最新型ミサイル系統に酷似している。

しかしロシアの航空武器専門家は KDR に次のように述べた：中国製武器の品質がロシアの同種製品の品質に劣るため中国人はロシアから同種のシステムを購入している、と。

いわゆる中国製 WS-15 エンジンについて、ロシアの専門家は、すべてのテストを完了し、使えるようにするには更に多くの時間が必要なのだろう。そうでなければ、中国人がこのように多くの 117S エンジンを購入するはずがない、と述べた。ロシアですら、最新型のエンジン” 30 シリーズ製品” 第 5 世代エンジンを T-50 に搭載し飛行試験を始めたばかりである。KDR の推測では：たとえ全ての試験が順調に進行しても、テストに 8 乃至 10 年はかかる。言い換えれば、真の第 5 世代 SU-57 は、10 年後にやっと大量生産が実現できる。

ロシア空軍が初めて購入した 15 機の SU-57 について、協議の内容、特にいつ生産が完了するか？何年かけて生産するか？等々については、明らかにされなかった。米国の F-22A は量産当初、年産 8 機だけであったことから見ると、15 機の SU-57 が生産完了するには少なくとも 3 乃至 4 年かかる。この段階は、現在の 117S シリーズエンジンしか使えない。

以上